

ホリスティック企業レポート ディップ

2379 東証一部

アップデート・レポート
2015年5月1日 発行

一般社団法人 証券リサーチセンター



証券リサーチセンター
審査委員会審査済 20150428

ディップ (2379 東証一部)

発行日: 2015/5/1

インターネットにより求人情報を提供する大手企業 収益拡大で従業員数増による人件費負担増をこなし業績好調続く

> 要旨

◆ 求人・求職情報事業と看護師紹介事業を展開

- ・ディップ(以下、同社)は、インターネットを利用した求人広告の掲載料と人材紹介料を収入源としている。
- ・アルバイトの「バイトル」と派遣の「はたらこねっと」、及び看護師人材紹介事業「ナースではたらこ」が同社の主力サイトである。

◆ 15年2月期は大幅増益

- ・15/2 期決算は、前期比 49.7%増収、同 180.3%営業増益であった。第3四半期決算と同時に公表された業績予想に対する達成率は売上高 102.8%、営業利益 120.2%であった。
- ・変動費が殆どなく売上増が利益に結び付く構造のため、修正予想に対する売上高の上積み分が営業利益として歩留まった。このことが、営業利益の達成率の高さに繋がった。

◆ 従業員数増等の固定費負担増をこなし16年2月期も増益へ

- ・16/2 期について同社は、前期比 25.4%増収、同 14.4%営業増益を見込んでいる。増収率より増益率が下回るのは、新卒社員の大量採用により人件費等固定費負担が増加すると想定しているためである。
- ・証券リサーチセンター(以下、当センター)は、同社予想を上回る前期比 33.1%増収、同 33.2%営業増益を予想する。15/2 期実績や事業環境を踏まえ、主力サイト「バイトル」の売上高を前期比 39.0%増と予想し、増収効果により大幅増益が続くと見込んでいる。

◆ 投資に際しての留意点

- ・16/2 期の1株当たり配当金を前期比6円増配の84円と同社は計画している。
- ・当センターでは配当性向 30%程度であった過去の実績が維持されると想定し、16/2 期の1株当たり配当金を100円と予想する。17/2 期以降も増益基調を見込んでいることから、増配が続くと予想する。

アナリスト: 松尾 十作

+81(0)3-6858-3216

レポートについてのお問い合わせはこちら

info@stock-r.org

【主要指標】

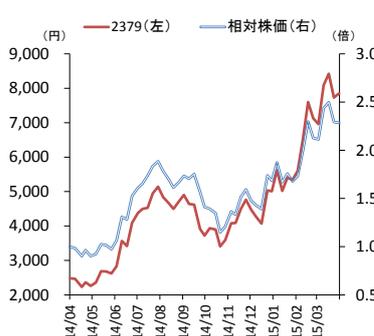
	2015/4/24
株価(円)	7,850
発行済株式数(株)	12,400,000
時価総額(百万円)	97,340

	前期実績	今期予想	来期予想
PER(倍)	30.4	22.9	17.7
PBR(倍)	13.1	9.1	7.3
配当利回り(%)	1.0	1.3	1.7

【株価パフォーマンス】

	1カ月	3カ月	12カ月
リターン(%)	0.5	39.7	246.6
対TOPIX(%)	-4.4	25.3	207.3

【株価チャート】



(注)相対株価は対TOPIX、基準は2014/4/25

【2379 ディップ 業種: サービス業】

決算期	売上高	前期比	営業利益	前期比	経常利益	前期比	純利益	前期比	EPS	BPS	配当金
	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(円)	(円)	(円)
2013/2	9,142	-20.0	248	-69.1	233	-69.4	61	-83.7	5.6	313.5	8.0
2014/2	13,050	42.7	1,714	590.0	1,702	629.6	940	—	85.1	389.8	23.0
2015/2	19,530	49.7	4,806	180.3	4,817	182.9	2,856	203.7	258.0	597.1	78.0
2016/2 CE	24,500	25.4	5,500	14.4	5,497	14.1	3,071	7.5	277.4	—	84.0
2016/2 E	26,000	33.1	6,400	33.2	6,397	32.8	3,791	32.7	342.3	861.4	100.0
2017/2 E	32,500	25.0	8,300	29.7	8,297	29.7	4,910	29.5	443.4	1,075.9	130.0
2018/2 E	40,000	23.1	11,000	32.5	10,997	32.5	6,510	32.6	587.9	1,484.8	180.0

(注)CE:会社予想、E:証券リサーチセンター予想

アップデート・レポート

2/12

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。一般社団法人 証券リサーチセンターは、本レポートの配信に関して閲覧し投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。また、本件に関する知的所有権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

> 事業内容

◆ インターネットの求職・求人情報サイトを運営

ディップ (以下、同社) は、インターネットを利用した求人情報の提供と人材紹介を主たる事業とし、アルバイト、派遣、契約社員、正社員、あるいは医療関係者などの特定の労働形態や職種などに応じて専用のサイトを設けている。

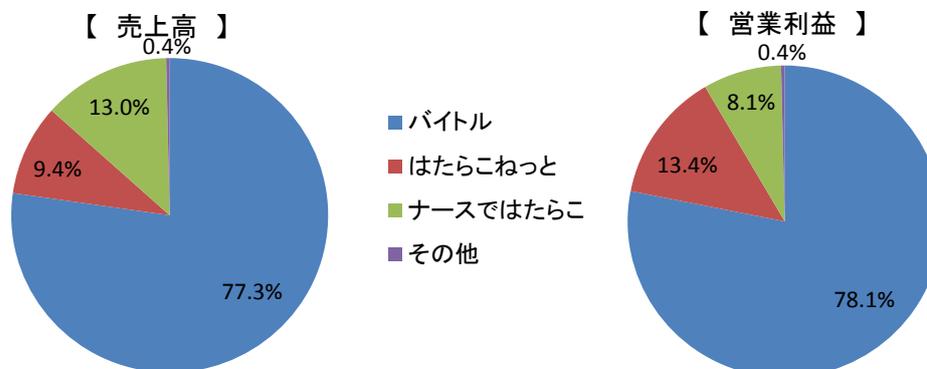
同社の事業はメディア事業とエージェント事業に分けられる。

メディア事業は求人広告事業であり、同社が運営するインターネット上の求人サイトに出稿する企業から受け取る求人情報掲載料が売上高となる。同社の主力サイトは「バイトル」、「はたらこねっと」の2つである。

「バイトル」は、アルバイト希望者と求人企業を結ぶ Web サイトで、15/2 期の売上構成比は 77.3%、営業利益構成比 (調整額控除前、以下同様) は 78.1%に達する主力事業である。「バイトル」には、サブカテゴリとして、志向性の強いユーザーに向けた専門サイトがある。専門サイトは、コンビニエンスストアのアルバイトに特化した「コンビニバイトル」、服飾販売に特化した「Apparel Collection」、リゾート地での短期及び住み込みのアルバイトに特化した「リゾートバイトル」、工場系の仕事に特化した「工場バイトル」、ナイトワークに特化した「バイトルセレブ」等の 10 サイトである。

「はたらこねっと」は、派遣社員の求人情報を提供しており 15/2 期の売上構成比は 9.4%、営業利益構成比は 13.4%である。15/2 期より女性向けに派遣会社及び転職エージェントの求人情報を集約した求人及び転職サイト「はたらこ index」の掲載が開始された。

【 図表 1 】 サイト別売上高及び営業利益構成 (15/2 期)



(注) 営業利益は調整額控除前
(出所) ディップ決算説明会資料より証券リサーチセンター作成

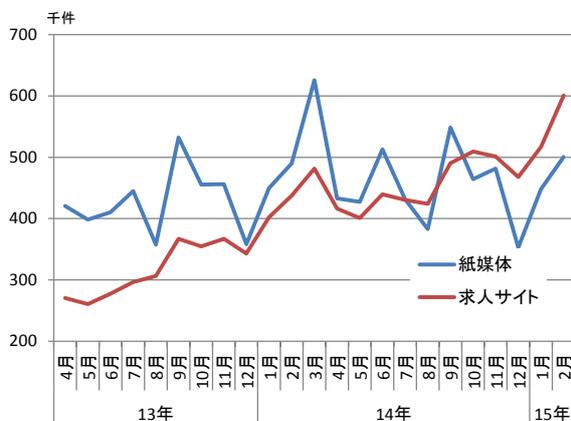
エージェンツ事業は、看護師専門の求人サイト「ナースではたらこ」を運営しており、人材紹介による成功報酬を収益とする事業である。具体的には、転職を希望する看護師及び准看護師に医療機関を紹介する窓口となるサイトを運営し、転職実現時に医療機関より仲介手数料を得ている。15/2 期の売上構成比は 13.0%、営業利益構成比は 8.1% である。当該事業への参入は 09 年で、同社は後発企業である。

> 業界動向

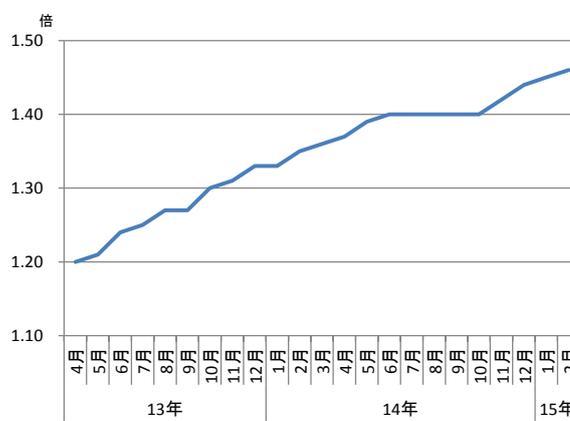
◆ 求人サイト需要高まる

13 年 4 月から 15 年 2 月迄の求人広告件数の推移をみると、インターネット上の求人サイトの広告件数が増加しており、14 年 10 月以降、求人サイトの広告件数が紙媒体全体（有料求人情報誌、フリーペーパー、折込求人紙）のそれを上回っている（図表 2）。スマートフォンなどで最新情報が閲覧できる利便性が求人者に重宝がられているからと思われる。パートタイムの有効求人倍率（季節調整値）も、右肩上がりが続いている（図表 3）。労働需給のタイト化が広告件数の上昇（特に求人サイト）をもたらしていると思われる。

【 図表 2 】 求人広告件数推移



【 図表 3 】 パートタイムの有効求人倍率



(注) 有効求人倍率は季節調整値

(出所) 図表 2 は全国求人情報協会の HP、図表 3 は厚生労働省 HP に掲載されたデータに基づき証券リサーチセンター作成

> 強み・弱みの分析

◆ SWOT 分析

同社の内部資源（強み・弱み）及び外部環境（機会・脅威）の状況を整理すると図表 4 のようにまとめられると証券リサーチセンター（以下、当センター）では考えている。

【 図表 4 】 SWOT 分析

強み (Strength)	<ul style="list-style-type: none"> ・業界トップの知名度と実績、運営するサイトの高い評価 ・主要サイトの豊富な情報量 ・閲覧者から高い支持を受けているサイトのユーザビリティ ・収益性が高く、財務体質も健全
弱み (Weakness)	<ul style="list-style-type: none"> ・特定人物（社長）への依存が大きい ・経済環境及び労働需要に収益が左右されやすい ・単一事業に対する依存度が高いこと
機会 (Opportunity)	<ul style="list-style-type: none"> ・労働市場の流動化、転職市場の拡大 ・企業が多種多様な労働形態を用意し、状況によりアウトソーシングする流れ
脅威 (Threat)	<ul style="list-style-type: none"> ・競争激化 ・労働関連に関する法律などの改正、新規の関連法律の施行 ・タウンワーク等業界大手との価格競争による収益力低下懸念

(出所) 証券リサーチセンター

同社のサイトの強みは、写真や文章に加え、職場の雰囲気や実際に働いているスタッフの姿を動画で見ることができることや、応募の状況が分かるように5段階のバロメーター表示をしていること等にある。

同社の成長性の高さは、売上高の過去5期平均の年率成長率が19.6%であることにあらわれている。売上高営業利益率は24.6%（15/2期）と高く、借入金はなく、自己資本比率は60.0%（15/2期末）と高い。

他方、売上及び利益の両面でアルバイトの仕事を紹介する「バイトル」への依存度の高さが弱みとして挙げられる。

> ESG活動・分析

◆ 環境対応 (Environment)

同社は環境方針を策定していない。なお、同社が手がけている「インターネットによる求職及び求人へのマッチング」というビジネスは、それ自体がペーパーレスで環境保全に資する事業と考えることができる。

◆ 社会的責任 (Society)

同社は、社員のボランティア活動を支援する「ボランティア活動サポートプログラム」や子供のいる従業員も安心して長く働ける「チャイルドケア・サポートプログラム」等を設けている。

15年3月に、「ナースではたらこ」が職業紹介優良事業者に認定された。厚生労働省は経営の安定性、法令の遵守、業務の適正運営等の認

定基準に沿い、職業紹介優良事業者を認定しており、14年度の認定事業者は27社であった。優良事業者の認定は、求人企業にとって人材紹介事業者を選択する際に重視されるものと思われる。

◆ 企業統治 (Governance)

5月23日の定時株主総会で承認されると、同社の取締役は7人、うち社外取締役2名(両名とも新任)、監査役は4名(うち1名は新任)という体制となる。社外取締役の1名はヴァイセコーポレーション及び社会人材コミュニケーションズの代表取締役等を兼任している野田 稔氏、もう1名は清水 達也氏で、DEiBA Company (デアイバカンパニー) 代表取締役である。新任監査役は現取締役の喜藤 憲一氏である。

> 決算概要

◆ 15年2月期は営業大幅増益

15/2期決算は、売上高19,530百万円(前期比49.7%増)、営業利益4,806百万円(同180.3%増)、経常利益4,817百万円(同182.9%増)、当期純利益2,856百万円(同203.7%増)であった。第3四半期決算発表と同時に修正された業績予想(以下、修正予想)に対する達成率(図表5の達成率G/D)は、売上高102.8%、営業利益120.2%であった。変動費が殆どなく売上増が利益に結び付くため、修正予想に対する売上高の上積み分(530百万円)が修正予想に対する営業利益の上積み分(806百万円)の過半を占めている。

【図表5】15年2月期決算概要

	ディップ予想					証券リサーチ センター予想 F	実績 G	前期比	達成率			乖離率 D/C-1
	期初 A	14年6月時点 B	14年9月時点 C	15年1月時点 D	15年3月時点 E				G/A	G/D	D/C-1	
売上高	15,500	16,180	17,229	19,000	19,530	18,500	19,530	49.7%	126.0%	102.8%	5.6%	
営業利益	2,250	2,529	3,015	4,000	4,806	3,600	4,806	180.3%	213.6%	120.2%	33.5%	
経常利益	2,240	2,521	3,011	4,006	4,817	3,596	4,817	182.9%	215.0%	120.2%	34.0%	
当期純利益	1,240	1,387	1,661	2,241	2,856	2,000	2,856	203.7%	230.3%	127.4%	42.8%	

(注) 証券リサーチセンター予想は、14年11月時点

(出所) 決算短信及びディップニュースリリースより証券リサーチセンター作成

主要サイト別でみると、「バイトル」は、売上高15,089百万円(前期比57.5%増)、営業利益4,992百万円(同117.7%増)であった。月間平均契約社数は6,846社、前期比17.3%増であったが、顧客層を大手企業にシフトしたこと、掲載情報数は74,136件、同35.1%増と大きく伸長した。パートの有効求人倍率が高い水準で推移するなか、既存サイトへの入稿が順調に拡大したことに加えて、新たに「コンピ

ニバイトル」等の専門サイトを立ち上げ、閲覧者に対するサイトのユーザビリティを高めたこと等が奏功した。掲載情報数の伸長率より増収率が高いのは、応募者数増を背景に受注価格の是正が進んだためである。

「はたらこねっと」は、売上高 1,827 百万円（前期比 77.3%増）、営業利益 858 百万円（同 112.0%増）であった。ヤフー（4689 東証一部）の連結子会社である株式会社インディバルとの業務提携により、「Yahoo! JAPAN」の求人情報ページと同社の「はたらこねっと」が 14 年 4 月 1 日からリンクされた効果もあり、掲載情報数が 34,041 件、前期比 29.0%増と伸長したためである。「はたらこねっと」においても受注価格の是正が進み、増収率が掲載情報数の伸長率を上回った。

エージェント事業である「ナースではたらこ」は、売上高 2,545 百万円（前期比 9.6%増）、営業利益 516 百万円（同 75.5%増）であった。増収率を大きく上回る増益率は、変動費が殆どなく増収分（222 百万円）が利益増（222 百万円）に結び付いたためである。

販売費及び一般管理費の対売上高比率は前期比 8.8%ポイント低下の 65.9%となった。販売促進費を含む広告宣伝費は 5,132 百万円（前期比 59.1%増）で、対売上高比率は 26.3%（前期 24.7%）となった一方でその他経費の前期比増分が増収率を下回ったためである。増収効果で売上総利益率が同 2.7%ポイント上昇の 90.5%であったことと相まって、売上高営業利益率は同 11.5%ポイント改善し 24.6%となった。

> 業績見通し

◆ ディップの 16 年 2 月期予想

16/2 期について同社は、売上高 24,500 百万円（前期比 25.4%増）、営業利益 5,500 百万円（同 14.4%増）、経常利益 5,497 百万円（同 14.1%増）、当期純利益 3,071 百万円（同 7.5%増）を見込んでいる。サイト別の業績予想は開示していない。

16/2 期に計画している施策は、次の通りである。

1. 営業体制強化のため、15 年春の新卒入社 300 名に加え 16 年春新卒採用 300 名以上を予定しており、営業拠点数の増設を計画している。既に川崎、船橋等 6 カ所は決定しているが、16/2 期中に更に数カ所の開設を計画している。
2. 広告宣伝強化のため、同社 1 社独占提供のテレビ番組の放映を 15 年 4 月より開始した。巷で話題のアルバイトを紹介する番組である。
3. パートタイムの希望者と求人企業を結ぶ専門サイトである「パート de バイトル」に注力する。「パート de バイトル」は 14

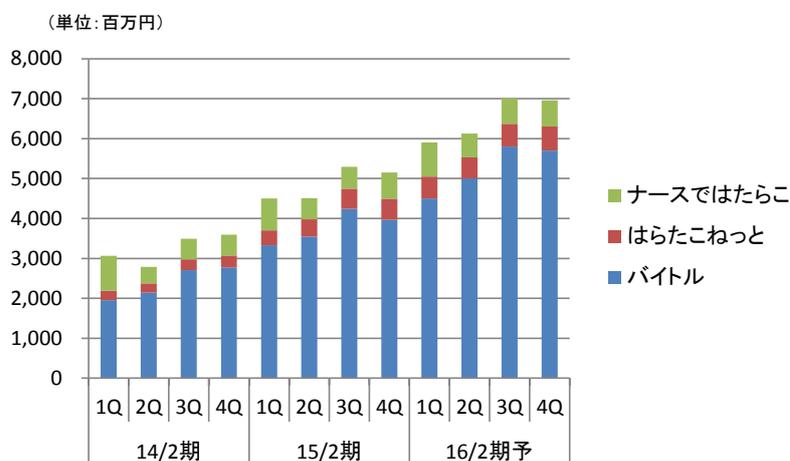
注) 総務省調査
総務省統計局の「労働力調査平成26年7月～9月平均」によるデータである。

年10月から開始されたサイトである。総務省調査^注によれば、アルバイトの雇用者数400万人に対し、パートタイムの雇用者数は932万人と倍以上の規模に達している。パートタイムで働く希望者に対する訴求力が弱いと同社は判断しており、新たな手法による広告宣伝活動をする方針の模様である。

◆ 証券リサーチセンターの16年2月期予想

当センターの16/2期業績予想は、売上高26,000百万円(前期比33.1%増)、営業利益6,400百万円(同33.2%増)、経常利益6,397百万円(同32.8%増)、当期純利益3,791百万円(同32.7%増)と予想する。

【図表6】四半期別媒体別売上高推移



(注) 予想は証券リサーチセンター
(出所) 決算短信より証券リサーチセンター作成

主要サイト別の予想売上高は、「バイトル」については20,970百万円(前期比39.0%増)、「はたらこねっと」については2,250百万円(前期比23.1%増)、「ナースではたらこ」については2,750百万円(前期比8.0%増)と予想する(図表6)。従業員数が15/2期末836名(前期末比85名増)から15年4月時点で1,126名(同290名増)と増加したものの、増収効果で人件費等固定費増を吸収し、33.2%営業増益を予想する。

同社が期初にやや保守的な予想を公表し、期中に業績の上方修正を行う傾向があるのに対し、当センターは足元の勢い及び景況感を反映させて売上高を予想したことが同社予想との相違点と言える。営業費の予想には人件費増や拠点増設コストを考慮したが、売上高の予想が同社予想を上回るため、利益面も同社予想を上回ることになった。

当センターの前回予想(14年11月)との主な相違点は、15/2期下期(第3四半期と第4四半期の合計)の前年同期比増収率が、事前の当センター予想をいずれも大きく上回った(図表7)ため、好調要因を精査して新予想の売上高に反映させた。

利益面では、売上総利益率を89.5%から90.4%に若干上方修正した。メディア事業において、応募者数増を背景にしたサイトの掲載単価等の改善が進んだことを反映させた。

販売費及び一般管理費は14,900百万円(対売上高比71.0%)から17,100百万円(同65.8%、前期比32.9%増)に増額した。主な内容は、ア)販売促進費を含む広告宣伝費を対売上高比で負担が軽減する程度に増額したこと(対売上高比30.0%→26.0%、前期比31.7%増)、イ)従業員数が15/2期末836名(前期末比85名増)から15年4月時点で1,126名(同290名増)に増加していることを踏まえ人件費を増額したこと等である。

【図表7】15年2月期のサイト別売上高予想と実績

(単位:百万円)

サイト別売上高	上期	下期予想	通期予想	下期	乖離率	通期	乖離率
バイトル	6,878	7,342	14,220	8,211	-10.6%	15,089	-5.8%
はらたこねっと	799	901	1,700	1,028	-12.4%	1,827	-7.0%
ナースではたらこ	1,333	1,167	2,500	1,212	-3.7%	2,545	-1.8%

(注) 予想は証券リサーチセンター
(出所) ディップ決算説明会資料より証券リサーチセンター作成

➤ 中期見通し

◆ 証券リサーチセンターの中期見通し

同社は中期経営計画を公表していない。当センターでは15/2期実績及び16/2期予想を踏まえ、前回レポートの中期業績予想を見直すとともに18/2期業績予想を新たに策定した。18/2期は売上高40,000百万円(15/2期から18/2期までの平均成長率27.0%)、営業利益11,000百万円(同31.8%)と予想する。

売上高では、主力サイトである「バイトル」の平均成長率を年率31.1%と前回の22.0%(13/2期から16/2期までの年率成長率)から上方修正した。足元の同サイト売上高の勢い(15/2期前期比57.5%増)やパートの有効求人倍率の上昇等を考慮するとともに、従業員数の増加により、「バイトル」の競争力が増すことを期待したためである。

留意すべき点は従業員数である。新卒採用は14年春134名、15年春300名であったが、16年春は300名以上を検討している模様である。人件費等固定費の増加を想定し、14/2期、15/2期のような増収率を大きく上回る営業増益率は見込めないと思われる。

【図表8】証券リサーチセンターの中期業績予想

(単位：百万円)

	15/2期実績	旧16/2期E	16/2期E	旧17/2期E	17/2期E	18/2期E
売上高	19,530	21,000	26,000	23,000	32,500	40,000
メディア事業	16,985	18,400	23,250	20,300	29,600	36,950
バイトル	15,089	15,700	20,970	17,400	26,970	33,970
はたらこねっと	1,827	1,900	2,250	2,100	2,600	2,950
その他	69	800	30	800	30	30
エージェント事業	2,545	2,600	2,750	2,700	2,900	3,050
売上総利益率	90.5%	89.5%	90.4%	88.8%	90.5%	90.5%
販売費及び一般管理費	12,871	14,900	17,100	16,220	21,116	25,205
(対売上高比)	65.9%	71.0%	65.8%	70.5%	65.0%	63.0%
広告宣伝費	5,132	6,300	6,760	6,700	8,450	10,400
(対売上高比)	26.3%	30.0%	26.0%	29.1%	26.0%	26.0%
営業利益	4,806	3,900	6,400	4,200	8,300	11,000
(対売上高比)	24.6%	18.6%	24.6%	18.3%	25.5%	27.5%
経常利益	4,817	3,896	6,397	4,196	8,297	10,997
(対売上高比)	24.7%	18.6%	24.6%	18.2%	25.5%	27.5%
当期純利益	2,856	2,200	3,791	2,400	4,910	6,510
(対売上高比)	14.6%	10.5%	14.6%	10.4%	15.1%	16.3%

(出所) 証券リサーチセンター

> 投資に際しての留意点

◆ 配当性向 30%程度の維持を想定

同社は、期末配当として年1回の配当を行うことを株主に対する継続的な利益還元策としてきた。しかし、同社は株主への利益還元の機会充実を唱え、15/2期より第2四半期(以下、上期)末と期末の2回に分けて配当を行っている。15/2期上期の中間配当金は1株当たり26円、期末配当金は52円の予定で、年間の1株当たり配当金は78円を計画し、配当性向は30.2%となる。16/2期については、同社の1株当たり配当金予想は84円であり、同社予想利益に対する配当性向は30.3%である。

当センターでは同社が配当性向 30%程度を維持すると想定し、16/2期の1株当たり年間配当金は100円を予想する。17/2期以降も増益基調の持続を予想しており、配当性向 30%を基準に増配基調が続くと予想する。

「ホリスティック企業レポートとは」

ホリスティック企業レポートとは、証券リサーチセンターが発行する企業調査レポートのことを指します。ホリスティック企業レポートは、企業側の開示資料及び企業への取材等を通じて収集した情報に基づき、企業価値創造活動の中長期の持続可能性及び株価評価などの統合的分析結果を提供するものです

本レポートの特徴

■ 魅力ある上場企業を発掘

新興市場を中心に、アナリスト・カバーがなく、独自の製品・技術を保有している特徴的な企業を発掘します

■ 企業の隠れた強み・成長性を評価

本レポートは、財務分析に加え、知的資本の分析手法を用いて、企業の強みを評価し、企業の潜在的な成長性を伝えます。さらに、今後の成長を測る上で重要な KPI (業績指標) を掲載することで、広く投資判断の材料を提供します

■ 第三者が中立的・客観的に分析

中立的な立場にあるアナリストが、企業調査及びレポートの作成を行い、質の高い客観的な企業情報を提供します

本レポートの構成

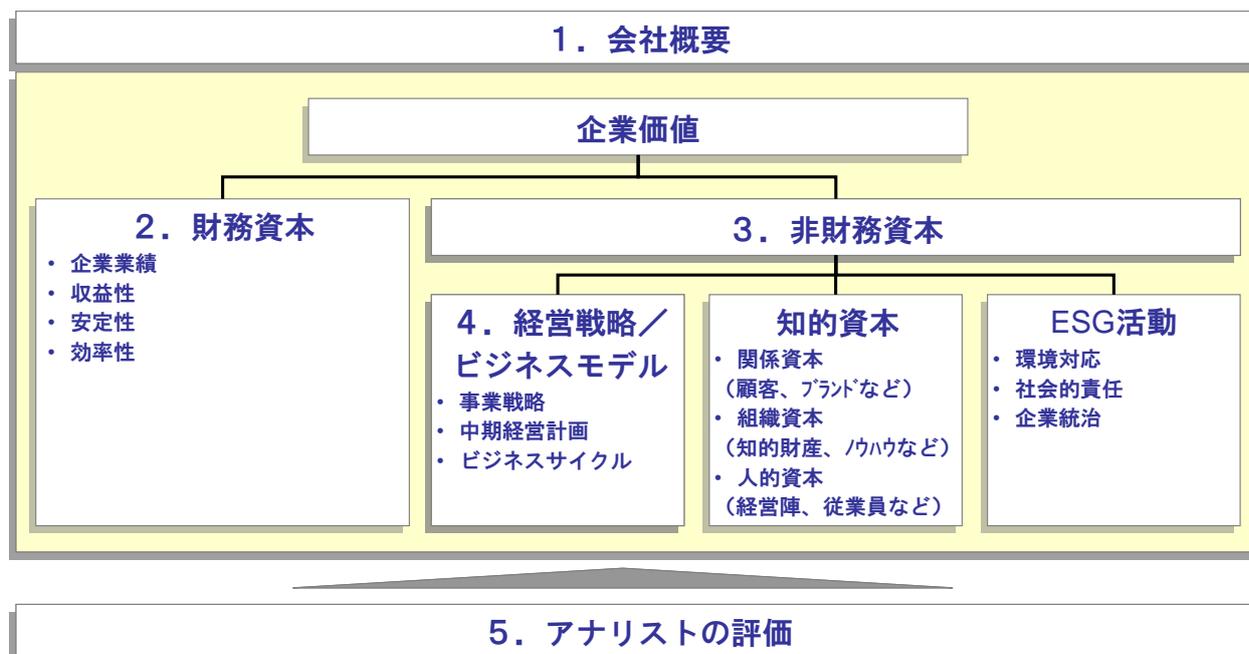
本レポートは、企業価値を「財務資本」と「非財務資本」の両側面から包括的に分析・評価しております

企業の価値は、「財務資本」と「非財務資本」から成ります。

「財務資本」とは、これまでに企業活動を通じて生み出したパフォーマンス、つまり財務諸表で表される過去の財務成果であり、目に見える企業の価値を指します。

それに対して、「非財務資本」とは、企業活動の幹となる「経営戦略／ビジネスモデル」、経営基盤や IT システムなどの業務プロセスや知的財産を含む「組織資本」、組織の文化や意欲ある人材や経営陣などの「人的資本」、顧客との関係性やブランドなどの「関係資本」、社会との共生としての環境対応や社会的責任などの「ESG 活動」を指し、いわば目に見えない企業の価値のことを言います。

本レポートは、目に見える価値である「財務資本」と目に見えない価値である「非財務資本」の両面に着目し、企業の真の成長性を包括的に分析・評価したものです。



指標・分析用語の説明

■ PER (Price Earnings Ratio)

株価を1株当たり当期純利益で除したもので、株価が1株当たり当期純利益の何倍まで買われているのかを示すものです

■ PBR (Price Book Value Ratio)

株価を1株当たり純資産で除したもので、株価が1株当たり純資産の何倍まで買われているのかを示すものです

■ 配当利回り

1株当たりの年間配当金を、株価で除したもので、投資金額に対して、どれだけ配当を受け取ることができるかを示すものです

■ ESG

Environment : 環境、Society : 社会、Governance : 企業統治、に関する情報を指します。近年、環境問題への関心や企業の社会的責任の重要性の高まりを受けて、海外の年金基金を中心に、企業への投資判断材料として使われています

■ SWOT 分析

企業の強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、脅威 (Threat) の全体的な評価を SWOT 分析と言います

■ KPI (Key Performance Indicator)

企業の戦略目標の達成度を計るための評価指標 (ものさし) のことです

■ 知的資本

顧客関係や業務の仕組みや人材力などの、財務諸表には表れないが、財務業績を生み出す源泉となる「隠れた経営資源」を指します

■ 関係資本

顧客や取引先との関係、ブランド力など外部との関係性を示します

■ 組織資本

組織に内在する知財やノウハウ、業務プロセス、組織・風土などを示します

■ 人的資本

経営陣と従業員の人材力を示します

免責事項

- 本レポートは、一般社団法人 証券リサーチセンターに所属する証券アナリストが、広く投資家に株式投資の参考情報として閲覧されることを目的として作成したものであり、特定の証券又は金融商品の売買の推奨、勧誘を目的としたものではありません。
- 本レポートの内容・記述は、一般に入手可能な公開情報に基づき、アナリストの取材により必要な補充を加え作成されたものです。本レポートの作成者は、インサイダー情報の使用はもとより、当該情報を入手することも禁じられています。本レポートに含まれる情報は、正確かつ信頼できると考えられていますが、その正確性が客観的に検証されているものではありません。また、本レポートは投資家が必要とする全ての情報を含むことを意図したものではありません。
- 本レポートに含まれる情報は、金融市場や経済環境の変化等のために、最新のものではなくなる可能性があります。本レポート内で直接又は間接的に取り上げられている株式は、株価の変動や発行体の経営・財務状況の変化、金利・為替の変動等の要因により、投資元本を割り込むリスクがあります。過去のパフォーマンスは将来のパフォーマンスを示唆し、または保証するものではありません。特に記載のないかぎり、将来のパフォーマンスの予想はアナリストが適切と判断した材料に基づくアナリストの予想であり、実際のパフォーマンスとは異なることがあります。したがって、将来のパフォーマンスについては明示又は黙示を問わずこれを保証するものではありません。
- 本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、一般社団法人 証券リサーチセンターは、本レポート内に含まれる情報及び見解を更新する義務を負うものではありません。
- 一般社団法人 証券リサーチセンターは、投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。
- 本レポートの著作権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

アップデート・レポート

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。一般社団法人 証券リサーチセンターは、本レポートの配信に関して閲覧し投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。また、本件に関する知的所有権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。